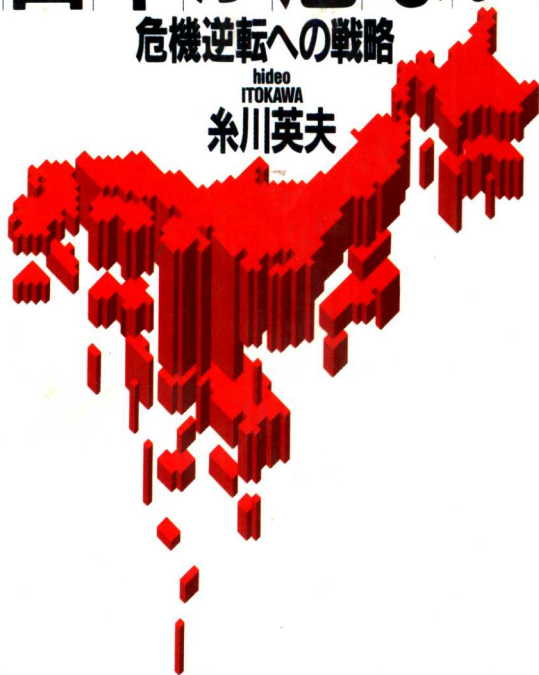


日本が危ない

危機逆転への戦略

hideo
ITOKAWA

糸川英夫



講談社/定価1300円

ISBN4-06-203353-4 C0095 ¥1300E (0)

目次●日本が危ない——危機逆転への戦略

第一章 なぜ、いま危機的日本論か

海外から日本を見て改めて危機的狀況を確認 18

開戦まもないころ敗戦を予測 19

日本の空前の高度経済成長も予測 21

米の供給過剰も予測 22

白鳥の湖と国際空港と一大ハイテク・センターを進言 24

オイル・ショックも予測して国賊あつかい 25

なぜ、石油価格が上がると予測したか 26

的中した石油価格暴落の予測 28

日本人へのテロも予測 30

「円高でも頑張る」は自殺行為 32

日本企業の海外脱出で新たな海外残留孤児が生まれる 33

輸入促進では戦争は回避できない 35

「頑張る」日本人は現状を下げるできない 36

「財テク」狂奔は「花見酒」の愚行 37

政府の内需拡大策は実現不可能 38

第二章 「ゴキブリ日本人」の繁栄ボケ

電子レンジに猫を入れて日本のメーカーを訴える 42

「法テク」の標的にされる日本企業 44

「日本企業からふんだくってやれ」 46

「日本をほめるのはもうやめよう」 48

「反感」の深層意識の恐ろしさ 50

肝心な外国情報に疎い日本人 53

「五輪書」が日本文化の本として外人に読まれているお粗末さ 54

ことさら日本の不得手分野を議題にする国際学会 56

急によそよそしくなったアメリカの友人 57

「バカバカしい！」の一言 59

「あんなものをサイエンスと考えるほど思い上がっている」 60

世界を荒らしまわる日本の金融力への反感 62

日本の「グリーン・ジャイアンツ」と「フグ・ボンド」 64

自分の力への無知は悲劇を招く 66

アメリカのハンデと日本のハンデはなにか 67

度がすぎた金儲けへのシッペ返し 71

下村治氏の明確な論理 72

「貿易格差の最大原因はレーガンの経済政策にある」 73

「日本製品が売れるのは自然の成り行き」 75

「改めるべきはアメリカ政府の収支アンバランス」 77

欧米の「憎日」を思い知らされた東京サミット 78

いつも「危機を食ってしまう日本」への危機感 81

いざとなれば日本との関係を切っても生きていける欧米諸国 82

アメリカの庶民は生活に困ってはいない 84

労働者一人当たりの生産性はアメリカのほうが上 85

頑張り度もアメリカのほうが上 87

基本的なところで強いアメリカ人 88

アメリカが経済へ全力投球したときには…… 89

アメリカの学会から締め出される日本人 90

日本人は「軍事力なき経済進出」の意味がわかっていない 91

第三章 極度の逆境を知らない日本人の脆さ^{しろ}

「これは日本潰しの十字軍だ」 96

異教徒日本への新しい宗教戦争が起こりつつある 97

宗教の違いからくる根本的なものの考え方の違い 99

アメリカにおける反アジア・ムードの背景は 101

日本語バリアーが国際化を阻害する 103

ユーロピアン・ランゲージ——四カ国語は一つの言葉 104

ユダヤ人の宿命は他人事ではない 106

「昔ユダヤ人、いま日本人」 109

ユダヤ人の直観 111

各界の超一流人にユダヤ人が多い 112

優れた学生はみなユダヤ人だった 114

厳格な戒律が嫌われる原因になる 115

日本人は自分をアジア民族だと思っていない 117

極度の逆境が独創性の源泉になる 119

- 建国の二十五年も前に工業学校をつくる先見性 121
- 建国に伴う極度の苦難を経験していない珍しい国 122
- 高い技術水準をもつテクニオン 124
- 悪条件を逆手にとれないと生きていけない 125
- 考え方が非常に安易な日本人 127
- ゼロから出発したイスラエル人 129
- プライオリティを尊重しない風土 130
- 「謙譲の美德」とのかね合い 131
- マサダの要塞——水を断たれて三年耐えしのいだ技術 132
- 死海の塩水と太陽から電気をつくる 135
- ハイテク工場もキブツ 137
- なぜ怠け者がいないか 138
- 義務づけないのがキブツの特徴 140
- 生き残りにかける強烈な執念 141
- 他人の痛みがわかる民族 142
- 日本にもやっと待望の逆境が 144

第四章 大破局への予兆

- 個人がお金の大半をもち、経済予測が困難に
金融に「商品」という名がつく時代 150 148
- 高貯蓄率が金融多様化の原因ではない 151
- 石油が上がった分だけドルを刷ったアメリカ 152
- 「擬似通貨」の大氾濫 155
- 通貨過剰のツケはどこに行くか 156
- 財テクと売上税で空洞化現象が進む 158
- 富とモラルは反比例する 159
- モラルが低下し、日本はE5の段階に 160
- 注目すべきアイアコッカの「犠牲の平等化」論 162
- 「アメリカ政府は借金を恥ずべきだ」 163
- 「サービス産業は経済を支え切れない」 166
- レーガンの大減税が愚劣な企業合併ブームを 168
- 日本自身が体質を変えるための至言 169

投機への狂奔が世界大恐慌を招いた 170

大恐慌の真の原因はモラルの喪失 172

モラルの規範としての宗教のお粗末な現状 173

科学としての物理学も混乱している 175

科学者たちの悲鳴が聞こえてくる 178

モラル喪失社会の行きつく先 180

イスラエルには、なぜモラルがあるか 182

第五章 日本人を待ちうける意外な陥穽^{かんせい}

日本は本当にハイテク世界一なのか 186

韓国に尻をつつかれる 187

ハイテクの進歩のアンバランス 189

一点凝集のアンバランス 190

相変わらず、古いハイテクが横行している 192

ハイテクは人間の基本的な部分に対処できない 194

「ハイテクで音楽は死んだ」 196

人間的な「ゆらぎ」が抹殺されてしまった 199

本来の姿を忘れてしまった 200

日本中で同じ歌い方を強要される恐ろしさ 202

ロボットに人間が合わせる愚かさ 203

日本のオーケストラは、なぜ上達しないのか 204

いま日本は高齢化社会？ 206

高齢化社会に対する誤解の原因 207

人口構成グラフの意味するところ 208

平均寿命の高齢化の本当のところ 210

子供が親の老後の面倒をみなくなったのは、自業自得 210

日本には加齢学がない 214

人間の能力は六十歳から七十歳がピーク 216

老人を食いものにする老人産業は日本だけ 217

基礎体力と生産効率は関係がない 220

「人生第三区間」のプランを立てない日本のサラリーマン 221

若さの秘訣は自分に適当な負荷をかけること 223

人生の針をゼロに戻すとは、謙虚になること 224

「自分はなにも知らない人間だ」と自分に言い聞かせる 226

平均寿命と平均余命が混同されている 227

長命化どころか、急速に短命化が進んでいる 229

五十代の死亡が、なぜ増えているか 230

おそるべき「逆縁現象」がはじまっている 232

日本一の長寿村で短命化現象が 233

「食生活改善」が実は「改悪」 235

死期を早めるスポーツ公害 237

生活目的の中で身体を動かすべき 238

若い人の精神力の不足 239

若い人が職場を明け渡してくれる？ 241

第六章 危機逆転へのイノベーション

海賊・植民地時代に乗り遅れた日本 244

貧乏、借金、子だくさんの三重苦を克服した日本 245

黒字転換への常套手段 247

国際化・自由貿易時代は終焉しつつある 248

日本にいたがらない外人記者 249

海外文化を入れると固有文化を消してしまふ日本人 251

「能」に魅入られて日本に永住した外人 252

欧米人に言われて気がつくのは教養の欠如 254

教養の高さは心で決まる 255

ものの輸出をやめて、心を輸出する 257

伝統文化の見なおし 258

京都の寺の庭に心を動かされるアメリカ人と若者 260

性急すぎた四十年、思い切ってブレーキを 261

実用にしか価値を認めない日本人 263

教育の基本に人生を据える 264

テクノロジーとイノベーションで世界有数の資源国に 265

太陽熱から氷をつくる 267

イスラエルの「独立作戦」 268

驚異の新エネルギー研究——石油時代の終焉 269

雪が燃料になる 270

冬も農繁期にできる 272

雪でヨーグルトをつくる 274

アフリカから農産物を買わなければならない 275

技術よりニーズを知ることが先 276

内臓を強化するための健康産業 277

睡眠産業もおもしろい 278

画期的な掃除機が開発された 281

日常生活の中の非合理性の中にヒントがある 282

途上国の模倣性を非難できるか 284

非国際化・不自由貿易時代に日本が生き残る道 286

「孤高の天才の時代は終わった」 288

ハイテクのつまずきは「一点凝集」のケンカから 289

これからの日本人に必要とされる三つの能力 290

プロフェッショナル・マネージャーが要求される能力 292

「和」と独創力をいかに結合させるか 294

集団の中では「和」、集団と集団の関係では個性 296

集団性創造学の実践法 297

人間関係の基本はワン・ペア 299

性格も年代も異なる人と組む 300

実験場を内之浦に決めたペア・システムの発想 301

不足分を補った上で能力の相乗効果を生む 303

仕事を不連続にしない効果 304

ポアンスカレの法則を地で行く 305

ペア・システムの発展でムカデ競走に勝つ 306

マルチ・カルチャールの発想を 307

危機に直面している日本のペア・システムの相手は誰か 308

すべては相手が望んでいるものを与えることから始まる 310

あとがき 314

日本が危ない——危機逆転への戦略

